

前年度の学校評価
ア 自己評価結果等

本年度の 重点目標	ア 心身ともに健康で安全に学ぶことのできる学校づくりを進める。 イ 本年度からの新教育課程及びICT教育の円滑な実施を進める。 ウ 地域から愛される学校づくりのため、諸活動に新たな価値を付加するとともに情報発信を積極的に行う。 エ 情報活用コースの一層の活性化を図るため、諸活動の検討と改善を行う。 オ 校務の効率化を図るため、様々な場面における連絡や資料配付の方法の改善を行う。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
式典・集会 行事・防災 (総務部)	式典・集会の安全で円滑な運営を行う。	学年等と連携し、状況に応じた式典・集会の方法を立案する。どの方法でも生徒が規律正しく行動できるよう指導する。	感染症予防の観点や気候に応じて、式典や朝礼を、体育館での集会としたり、放送で行うなどした。どちらの方法でも混乱なく、落ち着いた雰囲気の中で臨むことができた。
	危機管理や防災についての意識の向上を図る。	避難訓練・地震防災訓練を通じて緊急時における集団行動のあり方を生徒に認識させ、緊急時に備える。	避難訓練・地震防災訓練を実施し、生徒に避難経路を周知させ、注意喚起をすることができた。さらに意識を高めるよう取り組みたい。
授業規律 図書館活動 (教務部)	授業開始時に授業環境を整える。	チャイムまでに授業の準備を完了し、あいさつ後、授業を受ける態勢になるよう指導する。	各教員が放課中に教室に入り、生徒に声をかけることで円滑に授業を開始できた。
	図書館を利用した企画を行い、図書館の来館者を増やし、貸し出し冊数の増加を図る。	掲示・配布物などを通じて、図書館の存在を生徒に認識させる。生徒が図書館へ気軽に足を運べるような雰囲気作りを図る。企画、展示などに情報活用コース・図書委員の活用を図る。	図書館だよりを通して、図書室の利用機会促進を図った。読書だけでなく、自習のために図書館を利用する生徒が増えた。また、調べ学習の機会を設けるなど授業やLTにおいて図書館の利用機会が増えた。
	ICT教育の円滑な実施に向けた環境整備を進める。	教科・分掌に横断的に授業改善担当などと連携をとり検討をおこなう。	昨年度に続き、主体的・対話的で深い学びを目指した授業の充実とICTの活用を推進する、あいちラーニング推進事業として校内公開授業を行った。ICTの活用に関しては個人や一部の教科について実践が始まっているが、組織的な活用に広げていけるかが今後の課題である。
遅刻数の減少 交通安全指導 ルール遵守の指導 (生徒指導部)	遅刻指数1.2未満にする。	8時35分遅刻の指導を実施し、生徒がより時間を意識して行動できるようにする。	遅刻指数を見ると、昨年と変化はないが、不登校ぎみの生徒や感染症の疑いのある生徒など、個々に応じた指導が浸透してきている。
	登下校時の交通マナーの向上及び交通事故を防止する。	時間に余裕を持って登校するよう促していく。様々な教育活動を通じて、交通安全に関する指導を実施する。	さまざまな場面で、登下校時の交通マナーについて、繰り返し指導を行っていたが、本年度も交通事故や交通マナーを指導する機会が多かった。
	規則を遵守する規範意識を養う。	校則や身だしなみ指導や携帯用通信機器のルールをきちんと説明し、教員が生徒に様々な場面で指導していく。	校則における身だしなみやICT教育に伴う携帯用通信機器のルールに関して、変革の時期を迎えているので、本年度はいろいろな事例と照らし合わせた指導に取り組んだ。
キャリア教育 (進路指導部)	学習会の充実	1年は早朝スモールテストを行い基礎学力の定着を図る。2年はスモールテストに加えて講義型学習会を、3年は早朝・業後に講義型学習会を行い、大学受験に対応した応用的な学力の充実を目指す。	各学年団との協力のもと学習会を実施し、大学受験に向けて必要な力を養うことができた。多様な受験方法に対応できるよう講座の種類や内容について検討を重ねていきたい。
	進学指導の充実	難化した大学入試に対応するため、総合型入試・学校推薦型入試・一般入試を活用して進路実現を図る。	難化した大学入試に対応するため、学習会等で実力を育成し、進路実現を支援した。推薦入試を利用する生徒に向けてはそれぞれの受験校の特色に合わせた面接・小論文の個人指導を行い、総合的な力を身に付けることができた。
	就職指導の充実	1年から職場見学を行い、進路選択の材料を与える。また、卒業生や企業採用担当者の講話を聞く時間を設けることで、多角的な視点を持ち、将来を見据えた学校生活を送ることができるようにする。	1年11月職場見学(全員)、2年企業講話・インターンシップ(希望者)、3年職場見学(希望者)を実施することができた。社会人として活躍できるよう意欲をもって学校生活に打ち込む様子が見られた。
	進路情報の発信の充実	生徒昇降口・進路指導室前の掲示板やICTを活用し、生徒へ最新の進路情報を提供する。	生徒昇降口・進路指導室前の掲示板を活用し、生徒への進路情報の発信に努めた。また本校への求人情報をオンライン閲覧できるようにするなどICTを利用した進路情報の提供も始めた。
保健管理 保健指導 環境美化 (保健部)	感染予防に関する指導を行い、予防可能な感染を防ぐ。	登校前の検温を徹底し、健康観察記録カードへ体温を記入させる。健康観察表を活用し担任による健康観察結果から生徒の症状を把握する。感染症予防に関する指導を行う。保健室利用についてのルールを守らせることにより感染拡大を防ぐ。	健康観察記録カードの記入方法を簡略化し、担任の負担軽減をした。登校時の手洗いや毎放課の換気・昼食時の注意内容を放送することで注意喚起を促したが、慣れてしまったためか、なかなか徹底できなくなってしまった。隔離室を設定し換気の悪い空間で生徒が複数休養することがないようにし、使用後は消毒をした。これらの感染予防対策をしたが、オミクロン株の流行により、陽性者や濃厚接触者の数が増えてしまい、学年や学級閉鎖を出してしまった。さらに感染力の強いウイルスの出現に備え、予防対策を徹底していくことが課題となる。
	感染予防に留意しながら環境美化を保つ。	清掃箇所に応じて人数配分や方法を考慮し生徒に指示をする。清掃時、不特定多数が触れる箇所の消毒を行う。ゴミは持ち帰らせ、ゴミ箱は設置しない。	「密」にならないように清掃人数を減らしたりするなどの清掃方法を工夫するよう指示した。今年度も感染状況や時間確保の都合からワックスがけができなかったが、校内美化はある程度保つことができた。また、ゴミの持ち帰りも徹底することができた。しかし、教員の定数減や7時限授業日が週2日になったことにより、清掃監督が不足したり、清掃日が減ったことで清掃の行き届かない場所が出てしまった。清掃場所の精選と清掃日の確保が課題となる。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	
教科指導力の向上 (研修・教育工学部)	情報機器を活用した授業の充実	全教員が所持しているタブレット及びプロジェクトを活用した授業を参観・研修・個別実践を行うように努める。	愛知県教育委員会がオンラインで公開しているICT機器を活用した授業の実践方法を周知したり、校内授業研修週間やあいちラーニングの研究授業などの機会を活用した。
	ICT教育実施に向けた環境整備	本年度より導入するICTを活用した様々なサービスを安定して運用するため各種アカウントの管理・設定の手法を考える。また、ネットワーク構成・ユーザ管理、情報漏洩防止策などについて調査研究を行う。	様々なサービスや情報機器を導入したため、アカウントの管理に苦慮した。Googleのアカウントを用いたSSO(シングルサインオン)を利用して生徒が覚えるアカウントを減らした。生徒がパスワードを忘れた際に対応できるのが管理者となっている職員に限定されるため、仕事が集中してしまった。
情報漏洩の防止 (研修・教育工学部)	校内ネットワークの用途別活用方法の周知徹底	授業・会議で使う機会・環境を切り分け、漏洩の可能性を削減する。	情報漏洩を防ぐために、職員朝礼や職員会議にて周知した。
学校行事・部活動 (特別活動部)	生徒の人的成長に繋がる学校行事の企画と運営	生徒会役員が主体となり、行事を円滑に進められるように支援する。意見箱の設置等を実施し、生徒の意見・要望を可能な限り取入れ、行事の見直しや改善を行う。	生徒会役員が主体的に考えて行動する姿勢が見られた。特に、今年から文化発表会と体育大会が6月に同時開催となり準備が大変であったが、生徒会役員が前向きに取り組み、工夫しながら実施できた。意見箱の設置については、協議中であり、今年度は実現できなかったが、リーダー研修会において、生徒の意見・要望を可能な限り取入れ、行事の見直しや改善を行う参考とした。
	部活動の活性化	新1年生に対して、部活動への積極的な参加を促す。各部の顧問の意見・要望を聞き、部活動を行う環境を整える。	新1年生の様子は部によって差異はあるものの、良好な取り組みがなされていると思われる。一方で登録しても、途中で参加しなくなる生徒もおり、声掛け等により参加を促せるとよい。熱心に活動する生徒も多く、県大会へ出場した部活が増え、部活動の活性化に繋がった。部活動を行う環境については要整備だが、可能なところから整えていきたい。
生徒の心の安定 (教員相談部)	生徒の悩み等の情報把握と対応	心のアンケート、面談を活用し、生徒の悩みなどの情報を把握する。相談連絡会を通じて対応策を検討する。	特殊な状況が続き、生徒の悩みも多様化している。それぞれの生徒に対して、一定の基準のもとでのケースバイケースの対応が求められている。これまで以上に、情報の共有や迅速な対応が求められる。心のアンケート・面談・相談連絡会の活用と共に、個人情報を守りながら様々な立場の方との情報交換の場を設けたい。
	心の不安定な生徒への対応とSCとの連携	SCの周知をはかる。不登校の兆しがある生徒や心の不安定な生徒、問題行動が見られる生徒に対して、SCのカウンセリングを勧め、生活改善や心の安定を図る。	SCの周知が進み、保護者の活用も増えている。登校できない場合の電話相談も検討され、カウンセリングを受けやすい環境づくりが進んでいる。「思春期の心」について、「カウンセラー便り」などで学ぶこともできる。是非、活用してほしい。
	特別な支援を必要とする生徒の状況把握と対応の検討	本人や保護者からの申し出に加え、日常生活の様子に注意し、学習や生活に支障がないよう、合理的な配慮を図る。	特別な支援を必要とする生徒の多様化に学校が対応しきれない状態が続いている。日常生活を観察し、相談連絡会やSCに繋げることで、生徒の状況の把握・情報の共有・支援をしていきたい。
授業等、学校生活への取組 (第1学年)	基本的な生活習慣を確立する。	・規則正しい生活習慣を身につけるよう指導する。 ・時間を守る。ルールを守る。挨拶をする。身だしなみを正しくさせる。	学年団として時間やルールの徹底を指導することができた。一方で、時間が経つにつれて特に2学期に入ってから、学年全体に気の緩みが見られ、スマホやタブレットの不正利用や身だしなみ違反者が増えた。
	学習環境を整え、毎日の授業に集中して取り組む。	・教室の環境や授業に臨む姿勢を整えさせ、毎日の授業を大切にさせる。 ・家庭での学習習慣をつけさせる。 ・課題や提出物を期限内に提出することを守らせる。 ・学びの基礎診断を活用する。	多くの授業では規律を守って集中して授業を受けられているが、一部の授業では改善が必要であると感じた。また、学びの基礎診断等を活用し、家庭での学習習慣について振り返らせることができた。一方で、一部の全く勉強できていない生徒や課題を期限までに提出できない生徒への継続的な指導が必要である。
	安城南高生としての自覚を持つ	・高校生になった自覚を持たせる。 ・部活動や学校行事に積極的に取り組ませる。 ・学校生活に目標を持たせる。	高校は義務教育ではないことを生徒に継続的に伝え、学習や学校行事に積極的に取り組む姿勢が見られた。しかし、成績下位者を中心とした学校生活に目標を持たない生徒に対して、どう明確に目標を持たせるかを継続して考えていきたい。
授業等、学校生活への取組 (第2学年)	生活習慣・学習習慣を確立する。	・挨拶をする、時間を守る、身だしなみを常に整えるなどの生活習慣を確立させ、さらに家庭での学習習慣も確立させ、下級生の見本となる学校生活を送らせる。	定期的に行われる身だしなみ指導などを通して、正しい服装や頭髪で学校生活を送る意識を持たせることができた。身だしなみ以外の生活面を含めても学校行事の時や修学旅行の時にも大きな乱れがなく教員・生徒共に気持ちよく実施することができた。
	学習環境を整え、毎日の授業を大切にし、自ら考え行動する。	・毎日の授業を大切にさせる。 ・授業に臨む姿勢・環境を整えさせる。 ・課題や提出物を期限内に提出することを守らせる。 ・進路に対して真剣に考え、実現する努力をさせる。 ・教師から指示されたことだけでなくさまざまな場面で自ら考えて行動できるように力をつけさせる。	特進クラスの生徒を中心として、積極的に授業に参加し、授業後も残って自主的に学習する生徒が増えた。また、各クラスで面談などを通して自分の進路への意識を持たせることができた。その一方で、一部の生徒の課題の未提出や期限遅れが目立った。これらの生徒について今年度なかなか改善させることができなかったが、来年度以降どのような声かけをしていくかが課題として残った。
	安城南高校の中心として自覚をもって行動する。	・上級生になった自覚を持たせる。 ・部活動や学校行事では中心となることを自覚させ、行動させる。 ・学校生活に目標を持たせる。	多くの生徒が部活動を積極的に行い、学校行事に対しても前向きに取り組む様子を見ることができた。来年度は自分の進路に具体的な目標を持たせ、体育大会などでも団を引っ張っていく意識を持たせたい。
授業等、学校生活への取組 (第3学年)	落ち着いた学校生活を送ることのできる環境を整え、生徒がそれぞれの進路実現を目指す。	40周年を意識しつつ、正しく制服を着用することの意義を生徒に理解させ、全職員で指導する。	多くの生徒は正しく制服を着用しているが、一部でスカート丈が気になる生徒が散見された。今後も集会や授業開始時などでこまめに声掛けをし、全職員で指導していく必要がある。
		学習環境を整えるため、教室の環境整備を行う。	日頃の清掃活動により、概ね教室環境は良好な状況であった。今年度より7限授業が増えたことで、清掃時間が減っている。以前と変わらず教室環境を良好に保てるように、生徒も教員も環境整備への意識を高めていかねばならない。
		授業を大切にすることが進路実現に直結することを理解させ、授業規律の向上と学力の増進を図る。	進路実現に向け、授業や学習会に意欲的に取り組むように声掛けをし、生徒の多様な進路に応じた指導ができた。進路決定後も継続して学習に取り組む雰囲気作りが今後の課題である。
総合評価	ア 保健部、生徒指導部、教育相談部を中心に、心身ともに健康で安全に学ぶことのできる学校づくりを進めることができた。 イ ICTの活用に関しては個人や一部の教科について実践が始まっているが、組織的な活用に広げていけるかが今後の課題である。 ウ 中学校訪問や中学生向けの案内誌などを前年度のものを踏襲することができた。今後は内容や時期をよりニーズのあったものにしていく。 エ 高大連携授業や小学生との交流授業などの授業をよりよいものにすることができた。 オ 運営委員会や職員会議の会議資料のデータ化を進めることができた。		